

問4 12月8日(木)～14日(水)の労働時間について、注意事項・用語の定義・記入例を参考に、次頁の表に記入してください。

注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間についても併せて記入してください。
- ・「勤務日」「休日」のうち、該当するもの一つに○を付けてください。
- ・「始業」には勤務先に出動した時間を、「終業」には勤務先から退勤した時間を記入してください。
- ・労働時間は30分単位で記入してください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・「診療」には、外来診療、入院診療、在宅診療に従事した時間を矢印で記入してください。
- ・「診療外」には、教育、研究・自己研修、会議・管理業務等に従事した時間を矢印で記入してください。
- ・「当直」「オンコール」には、該当するものに○を付けて待機時間を矢印で記入し、そのうち実際に患者に対して診療等の対応を行った時間を「診療」に矢印で記入してください。
- ・休憩の時間は、空欄にして矢印を記入しないでください。

《用語の定義》

- 休日** 一日を通して通常の勤務が課せられていない日。
休憩 業務を行わず、食事や休養等に費やした時間で、診療・診療外のいずれにも含まない。

○ **診療**

外来・入院・在宅診療 外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していない場合でも、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えてください。

○ **診療外**

教育 研修医等の他の医師、看護師や事務職員等のコメディカル職種への教育やその準備に費やした時間。
研究・自己研修 実験や調査、論文執筆等に費やした時間や、学習（例：医学雑誌や医学書に目を通す）や研修（例：講習会・講演会・説明会等への参加）のために費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究・自己研修」の時間と考えてください。

会議・管理業務等 会議・管理業務（外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務）や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

○ **当直・オンコール**

当直 通常の勤務時間とは別に、**院内に待機して** 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務。
オンコール 通常の勤務時間とは別に、**院外に待機して** 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務。

《記入例》

- 調査日が「勤務日」で「オンコール」がある場合。
 - ・診療時間：7:30-10:30、14:30-16:30、18:30-19:30、22:00-24:00、翌日 3:30-5:00
 - ・診療外時間：10:30-12:30、13:30-14:30、16:30-18:30
 - ・オンコール時間：19:30-翌日 6:00

勤務日・休日	診療	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
始業 7時30分	診療外													
終業 19時30分	当直・オンコール													

休憩(12:30-13:30)は矢印を記入しない

- 調査日が「休日」で「オンコール」がなく、「診療」「診療外」の業務も行わなかった場合は、矢印の記入は不要となります。

12月 8日(木)

いずれかに○		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

該当する場合は、いずれかに○

12月 9日(金)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月10日(土)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月11日(日)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月12日(月)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月13日(火)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月14日(水)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

※12/14(水)については、問5(4頁)に関連した設問がありますので、予めご確認ください。

問5 12月14日(水)が勤務日だった方に伺います。

次の各業務のうち、(1)12月14日(水)の1日に各業務に費やした時間と、(2)現在自分で行っている業務量を100%としたときに他職種(看護師や事務職員等のコメディカル職種)に分担可能と考える割合についてお答えください。

	(1) 12/14に費やした時間	(2) 他職種に分担できる割合
① 患者への説明・合意形成	分	%
② 血圧などの基本的なバイタル測定・データ取得	分	%
③ 医療記録(電子カルテの記載)	分	%
④ 医療事務(診断書等の文書作成、予約業務)	分	%
⑤ 院内の物品の運搬・補充、患者の検査室等への移送	分	%

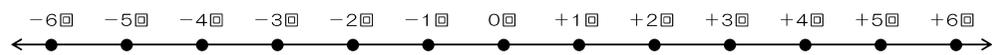
問6 現在の働き方を基準として、今後、どのような働き方を希望しますか？(1)1週間当たりの日勤の勤務日数の増減、(2)1カ月当たりの当直・オンコールの増減でお答えください。

※現在の勤務日数や当直・オンコール回数を希望される場合は、「0日」「0回」に丸を付けてください。

(1)1週間当たりの日勤の勤務日数の増減(当てはまる日数に丸を付けてください)



(2)1カ月当たりの当直・オンコールの増減(当てはまる回数に丸を付けてください)



問7 今後、問6の実現に必要なと思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|--|-------------------------|
| 01 院内保育施設の設置・充実 | 02 ベビーシッター費用の所得控除 |
| 03 育児/介護休業給付金の増額 | 04 給与の増加 |
| 05 育児/介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み | 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保 |
| 07 当直明けの休みの確保 | 08 有給休暇の取得促進 |
| 09 他職種との分担による業務負担軽減 | 10 時間外業務の縮減 |
| 11 短時間勤務の推進 | 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み |
| 13 働きやすい診療科を自由に選択できる(転科を含む)仕組み | |

第1位

第2位

第3位

「問8・問9は、配偶者又はパートナーが、医師で、且つ、現在無職の方に伺います。」

問8 配偶者又はパートナーの年齢についてお答えください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 01 20代以下 | 02 30代前半 | 03 30代後半 | 04 40代前半 |
| 05 40代後半 | 06 50代前半 | 07 50代後半 | 08 60代以上 |

問9 配偶者又はパートナーが、今後、復職を希望した場合、復職するために必要と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|--|-------------------------|
| 01 院内保育施設の設置・充実 | 02 ベビーシッター費用の所得控除 |
| 03 育児/介護休業給付金の増額 | 04 給与の増加 |
| 05 育児/介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み | 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保 |
| 07 当直明けの休みの確保 | 08 有給休暇の取得促進 |
| 09 他職種との分担による業務負担軽減 | 10 時間外業務の縮減 |
| 11 短時間勤務の推進 | 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み |
| 13 働きやすい診療科を自由に選択できる(転科を含む)仕組み | |

第1位

第2位

第3位

問10 現在、大学の医局に所属していますか？所属していない場合、今後、所属する予定はありますか？

- | |
|-------------------------|
| 01 所属している |
| 02 所属していないが、今後所属する予定である |
| 03 所属しておらず、今後所属する予定もない |

問11 今後のキャリアとして、次のうちどれを希望しますか？次の【選択肢】より第1希望、第2希望をお答えください。

選択肢

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 01 臨床(勤務医) | 02 臨床(開業医) |
| 03 介護・福祉分野(老健施設長など) | 04 産業衛生職(産業医など) |
| 05 行政職(地方・中央機関を含む) | 06 製薬・保険など民間企業(産業医を含まない) |
| 07 研究教育(大学や研究機関) | 08 国際機関(WHO等) |
| 09 その他() | |

第1希望

第2希望

問12 今後、東京都23区及び政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外で勤務する意志がありますか？(現在、当該地域に勤務されている方は「01ある」を選択して下さい)

- | | |
|--------------|--------------|
| 01 ある(⇒問13へ) | 02 ない(⇒問14へ) |
|--------------|--------------|

問13 <問12で「01ある」と回答された方のみ>
具体的には何年程度勤務する意志がありますか？

- | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|----------|
| 01 半年 | 02 1年 | 03 2~4年 | 04 5~9年 | 05 10年以上 |
|-------|-------|---------|---------|----------|

問14 <問12で「02ない」と回答された方のみ>

勤務する意志がない理由を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 01 既に都市部で開業しているため | 02 元の勤務地/希望する勤務地に行ける保証がないため |
| 03 医局の人事等のためキャリア選択や居住地選択の余地がないため | 04 希望する内容の仕事ができないため |
| 05 専門医等の資格取得が困難であるため | 06 労働環境に不安があるため |
| 07 経済的理由(収入・待遇)のため | 08 子供の教育環境が整っていないため |
| 09 両親等親族の介護のため | 10 家族の理解が得られないため |
| 11 その他() | |

第1位

第2位

第3位

問 15① これまで出産又は育児の経験はありますか？

01 経験がある (⇒問 15②△) 02 経験はない (⇒問 17△)

→ 問 15② <問 15①で「01 経験がある」と回答された方のみ>

産前休業又は育児休業を取得しないことがありましたか？

01 取得した (⇒問 17△) 02 取得しないことがあった (⇒問 15③△)

→ 問 15③ <問 15②で「02 取得しないことがあった」と回答された方のみ>

その際、勤務を継続しましたか？

01 勤務を継続した (⇒問 17△) 02 離職した (⇒問 16△) 03 配偶者が離職した (⇒問 17△)

→ 問 16 <問 15③で「02 離職した」と回答された方のみ>

どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

問 17 育児の経験はありますか？ある場合は、直近の育児を中心的に行った方をお答えください。

01 自分 02 配偶者又はパートナー 03 配偶者以外の親族 04 ベビーシッター
05 育児の経験はない (⇒問 21△)

<問 18・問 19は、問 17で「01」～「04」のいずれかを回答された育児の経験のある方のみ>

問 18 未就学児の育児中（育児休業中を除く）の働き方はどうされていきましたか（どうされていますか）？ 当てはまるものを全てお答えください。

- 01 子育て前と変化なし
- 02 時間短縮勤務（1日_____時間程度勤務）
- 03 勤務日数減（週_____日勤務）
- 04 業務内容軽減（例：当直免除）
- 05 研究生・大学院生
- 06 休職・離職
- 07 その他（具体的に_____）

問 19 問 18の実際の働き方を踏まえて、未就学児の育児中（育児休業中を除く）にあなたが希望した（する）働き方はどのようなものでしたか（ですか）？ 当てはまるものを全てお答えください。

- 01 子育て前と変化なし
- 02 時間短縮勤務（1日_____時間程度勤務）
- 03 勤務日数減（週_____日勤務）
- 04 業務内容軽減（例：当直免除）
- 05 研究生・大学院生
- 06 休職・離職
- 07 その他（具体的に_____）

問 20 <問 18で「06 休職・離職」と回答された方のうち、勤務の継続を希望されていた方に伺います。> どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

問 21 介護の経験はありますか？ある場合は、直近の介護を中心的に行った方をお答えください。

01 自分 02 配偶者又はパートナー 03 配偶者以外の親族 04 老人ホーム・介護施設
05 介護の経験はない

<問 22・問 23は、問 21で「01」～「04」のいずれかを回答された介護の経験のある方のみ>

問 22 介護休業を取得しましたか？

01 取得した 02 取得せず勤務を継続した 03 取得せず離職した

→ 問 23 <問 22で「03 取得せず離職した」と回答された方のみ>

どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

◎ 最後に、どのようなことでも結構ですので、ご意見・ご提案があれば、ご記入ください。

[_____]

※この欄の記載について報告書等への収録を（ 許可する ・ 許可しない ）

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
添付の返信用封筒に入れて、12月21日（水）までに直接投函してください。

医師の勤務実態及び働き方の意向等 に関する調査

医療施設調査票

厚生労働科学特別研究
厚生労働省医政局

2016年12月

<ご回答される医療施設のご担当者さま>

- 我が国の医療を取り巻く環境は、国民の医療や介護に対する期待、患者像の変化、介護と看取りの連携の進化、情報通信技術の発展等により大きく急激に変化しています。厚生労働省においては、新しい時代にふさわしい医療供給体制の構築を目指し、新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョンを策定しております。このビジョンの検討においては、現在の医師の勤務実態・キャリア意識を支える医療機関の状況を正しく把握することが必要不可欠です。そこで本調査を行うこととなりました。本調査の分析結果は、新たな医療における医療従事者の働き方の基本哲学に繋がります。未来の医療をより良いものにするため、ご協力くださいますようお願い致します。
- 本調査のデータは、医療施設が識別される形で集計を行うことはありません。
- 本調査票は、貴施設の責任者の方がご回答ください。
- ご回答は、当てはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- ご記入は鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。
- 本調査票は、同封の返信用封筒に入れて12月21日(水)までに投函してください。

研究班 URL : <http://ws-reforms.umin.jp/>



お問い合わせ先: 0120-167-727

平日9:00~18:00、平成29年1月31日(火)まで
但し、年末年始の12/29~1/3は除く

問1 貴施設の情報についてお答えください。(平成28年12月1日現在)

① 貴施設の郵便番号	〒 [] - []	
② 貴施設の開設主体 (※) O1又はO2の場合、[]内に○をつけてください。	O1 国 ⇒ [ア 国立大学法人 イ 国立大学法人以外の法人] (※) O2 公的医療機関 ⇒ [ア 都道府県 イ 市町村 ウ 公立大学法人] (※) [エ 日赤・済生会 オ 厚生連 カ ア~オ以外の法人] (※) O3 社会保険関係団体 O4 公益法人 O5 医療法人 O6 学校法人 O7 社会福祉法人 O8 医療系協 O9 株式会社 10 その他の法人 11 個人	
③ 貴施設の種別	O1 病院	O2 有床診療所 O3 無床診療所
④ 貴施設の指定等 (※) 該当するものすべてに○をつけてください。	O1 臨床研修病院(基幹型) O3 専門医の研修施設 O5 2次救急医療施設 O7 総合又は地域周産期母子医療センター	O2 臨床研修病院(協力型等) O4 救急指定病院 O6 救命救急センター(3次救急医療施設) O8 在宅療養支援病院・診療所
⑤ 貴施設の在院患者数 (※) 12月14日(水)24時時点の病床種別在院患者数をお答えください。	在院患者数 (うち) 高度急性期 (うち) 急性期 (うち) 回復期 (うち) 慢性期	人 人 人 人 人 (※) 貴施設で報告している病床機能報告における病床機能区分に合わせて在院患者数をご記入ください。
⑥ 貴施設の外来・救急患者数 (※) 12月14日(水)0時~24時の患者数をお答えください。	外来患者数 (うち) 時間外 (うち) 救急搬入	人 人 人

問2 貴施設に従事する医師及びコメディカル職種についてお答えください。(平成28年12月1日現在)

① 貴施設の医師数 (常勤・非常勤・臨床研修医・後期研修医)		常勤 (実人員)	非常勤 (実人員)	非常勤 (常勤換算)	臨床研修医 (実人員)	後期研修医 (実人員)
	男性医師	人	人	人	人	人
	女性医師	人	人	人	人	人
(※) 雇用形態に関わらず、貴施設が定める1週間の勤務時間(所定労働時間)の全てを勤務している場合は「常勤」、勤務していない場合は「非常勤」としてお答えください。 (※) 非常勤医師の常勤換算の算出については、非常勤医師の1週間の勤務延べ時間数(残業は除く)を、貴施設において常勤の医師が勤務すべき1週間の時間数(所定労働時間)で割り、小数点以下第2位を四捨五入してください。						
② 臨時に勤務する医師数	[] 人(実人員) (※) 12月8日(木)~14日(水)の間に、貴施設に臨時に勤務した医師数(実人員)をお答えください。 (※) 臨時に勤務とは、外来・当直のアルバイト医師や手術等への臨時の応援医師など、常勤以外の働き方で定期的にはその施設で勤務していない場合をお答えください。					
③ 非常勤の医師、臨時に勤務する医師の主たる勤務先 (※) それぞれ最もあてはまるものを1つだけ選択。	非常勤の医師	O1 大学病院等 O4 当院が主たる勤務先(短時間勤務等)	O2 大学病院以外の病院 O5 その他	O3 診療所等		
	臨時に勤務する医師	O1 大学病院等 O4 当院が主たる勤務先(短時間勤務等)	O2 大学病院以外の病院 O5 その他	O3 診療所等		
④ 退職した医師数 (※) 平成27年4月~平成28年3月の1年間に貴施設を退職した医師数をお答えください。			男性医師	女性医師		
	退職者数	人		人		
	(うち) 定年退職者数	人		人		
	(うち) 転職者数	人		人		
	(うち) 離職者数	人		人		
(※) 定年退職者数は貴施設で定める年齢に達して退職した医師数、転職者数は貴施設を退職した後他の施設に就職した医師数、離職者数は貴施設を退職した後他の施設に就職しない医師でかつ定年退職者でない医師数。						
⑤ 医師以外のコメディカル職種の常勤換算従事者数	看護師	人	准看護師	人	看護補助者	人
	助産師	人	薬剤師	人	理学療法士	人
	作業療法士	人	言語聴覚士	人	臨床工学技士	人
	診療情報管理士	人	医師事務補助者	人	その他の事務職員等	人
		人		人		人

問3 貴施設において現在実施されている、医師が仕事と家庭生活とを両立しながら働き続けるための取組について全てお答えください。

01 院内保育施設の設置・充実	02 ベビーシッター費用の所得控除
03 育児／介護休業給付金の増額	04 給与の増加
05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が昇給・昇進に影響しない仕組み	07 当直明けの休みの確保
06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保	09 他職種との分担による業務負担軽減
08 有給休暇の取得促進	11 短時間勤務の推進
10 時間外業務の縮減	
12 その他（	）

問4 貴施設には保育所または託児所がありますか？

01 ある	02 ない（⇒問7へ）
-------	-------------

「問4で「01 あり」と回答された施設のみ、問5及び問6にお答えください。」

問5 貴施設の保育所または託児所の平日の保育時間をお答えください。（24時間制でご記入ください）

時	分	～	時	分
---	---	---	---	---

※曜日によって保育時間帯が異なる場合は、最も長い保育実施曜日の時間帯を記入してください。

問6 貴施設の保育所または託児所で行っている取組を全てお答えください。

01 24時間保育	02 土曜日の保育	03 日曜祝日の保育
04 病児・病後児保育	05 一時保育	

問7 貴施設において、平成27年4月～平成28年3月の1年間に、以下の表のそれぞれの休業・勤務形態を取得・実施した医師の人数をお答えください。（いない場合は「0」人とお答えください。）

	男性医師	女性医師
産前・産後休業を取得		人
育児休業を取得	人	人
介護休業を取得	人	人
短時間勤務を実施	人	人

問8 医師の確保・定着に関する以下の取組のうち、貴施設で実施しているものを全てお答えください。

01 大学医局との連携	02 専攻医・常勤医師の公募採用
03 施設外での技術研修・留学等の支援	04 幹部職員としての採用手続き
05 給与の増額	06 職員用住居の整備
07 退職後の再雇用の推進	08 人材派遣会社を活用した募集
09 その他（	）

問9 医師以外のコメディカル職種の生産性の向上に関して、貴施設で実施しているものを全てお答えください。

01 有給休暇取得状況（職員全体の消化率等）の月次管理	02 超過勤務時間の月次管理
03 3年程度先の採用計画の策定	04 特定看護師等の採用
05 家族状況などに応じた勤務形態	06 職種間役割分担の定期的見直し
07 関連資格取得の支援	08 継続的教育の個別管理
09 その他（	）

問10 医療の質に関して、貴施設で指標として計測しているものを全てお答えください。

01 職員の予防接種率	02 職員の健診受診率
03 職員の喫煙率	04 年間のインシデント・アクシデントレポート総数
05 院内耐性菌サーベイランスの有無	06 CVカテーテルの感染率
07 院内褥瘡発生率	08 術後肺塞栓および深部静脈血栓症発生率
09 脳卒中患者の来院からCT等撮影までの平均時間（分単位）	
10 緊急血液検査所要時間（分単位）	11 その他（

◎ 最後に、どのようなことでも結構ですので、ご意見・ご提案があれば、ご記入ください。

※この欄の記載について報告書等への収録を（許可する ・ 許可しない）

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて12月21日（水）までに投函してください。